

理窓教育会報

第 48 号

平成 28 年 10 月 1 日

東京理科大学理窓教育会

事務局 PORTA 神楽坂 7 階

巻頭言『本学が「教育力の高い大学」、私立大学では 1 位』

東京理科大学理窓教育会会長 富岡 康夫 (48K)

平成 28 年 7 月 5 日、大学通信社は全国の高等学校 2 千校の進路指導教諭に行った「教育力の高い大学」に関する調査結果の発表を行いました。回答の学校は 750 校で、回答は 5 校連記で、大学を記入し最初の大学を 5 ポイントとして、以下 4 番目を 4 ポイント、最後の大学を 1 ポイントとしています。東京理科大学は 127 ポイントで私学では 1 位に、国公立を含めた総合でも 6 位に輝きました。コメントを引用すると、「単位修得が難しい」、指定科目に合格しないと進級できない「閉門制度」などの実力主義のもと、伝統的に学生を厳しく育てていることを評価する学校が多く 14 校が最高ポイントを与えています。

しかし、このことを私は、将来に向けての改善点であるとあえて考えました。そもそも、グローバル化、情報化が進むなか、将来の職業は不透明であり、正答のない問題、課題を克服できる人材の育成が叫ばれ、特に今年の大学入試では、「高大接続」改善のもと、推薦制度を、東京大学をはじめ多くの大学が取り入れて、今年の結果を成功や評価できるとしています。それは国内の少子高齢化、人口減少が進むなかで、大学に対するさらに人材養成教育に対する期待はさらに高まり、正答する力のある高校生から、高い思考力、判断力、表現力、主体性を持ち、協働して様々な課題を解決する人材の輩出が期待されているからです。

また今回の大学の評価は、他の様々な観点からの評価もあります。「面倒見の良い大学」、「就職に力を入れている大学」、「研究力が高い大学」、「国際化教育に力を入れている大学」等々。この結果をみますと、高等学校、中学校、小学校の一連

の教育制度も視点や評価の方法を変えなくてはいけない時代が始まったと考えます。

今、教育の場面ではデジタル教科書も進歩が著しく、コンテンツも意欲を育てる視点が盛り込まれており、タブレット端末の普及とも合いなり、これから現実の世界になります。機器の普及と共に、自ら進んで知ろうとする姿勢、知ったことを伝える表現力、チームとして協力すること等を身に付けさせる必要性を強く感じています。

ところで理窓教育会が支援する「坊っちゃん科学賞研究論文コンテスト(高校生部門)」は今年第 8 回になり、ますます充実しています。高校生の課題研究への支援も様々な場面が設定されていますが、国際的な大会の最高峰である科学オリンピックも、本学の先生が関わっており、数学、物理、化学に生物オリンピックの浅島誠先生が副学長に迎えられました。私は中教審の理科専門部会でご一緒しましたが、情熱溢れ、小学校一年生から理科を学ぶべきであると至言を述べていたことを思い出します。そして本学はいよいよ科学オリンピックのメッカとなりました。これは全国の科学オリンピック関係者のあこがれの大学へとなると思います。(ぜひ PR を)

さて、理窓教育会のこれからの使命ですが、あらたな教育方法が生まれるときに、情報の共有化が重要になるともいます。お互いに切磋琢磨して新しい時代の教育を目指しましょう。そのためのネットワークが理窓教育会です。とくに地方の先生方を大切にして行きますので、ご連絡をくださるようお願いいたします。

(私立文華女子中学・高等学校長)

東京理科大学理窓教育会 平成 28 年度 総会

第1号議案 平成27年度 会務報告

1. 東京理科大学理窓教育会総会

平成27年度は、「書面総会」の形式で実施した。各支部長に下記の事項の議案を送付し、意見等をアンケートの形で回答してもらった（アンケートの集約日は、平成27年6月末）。それを本部で集計し、会報第46号に詳細を掲載して、書面で承認をもらった。

- ① 平成27年度の会務報告及び会計報告。
- ② 平成28年度の活動計画及び予算案。

2. 組織の充実、強化に関して

① 各支部の活動状況（各支部からの報告事項から）

5月24日	東京支部総会	7月 5日	埼玉支部総会
7月25日	千葉支部総会	7月25日	岡山支部設立総会
8月 2日	神奈川支部総会	8月23日	富山支部総会
9月26日	北海道支部総会	10月10日	山梨支部総会
10月17日	長野支部総会	10月17日	秋田支部総会
11月14日	岩手支部総会	11月14日	群馬支部総会
1月16日	静岡支部総会	2月22日	三重支部総会
2月14日	佐賀支部総会		

② 会報発行

第46号 平成27年10月 1日発行

第47号 平成28年 4月 1日発行

- ##### ③ 副会長・支部長に会の活動状況、理窓教育会規約、副会長・支部長名簿等を送付し組織の活性化を図った。（10月）

3. 大学との連携事業

① 大学「キャリア教育」事業への協力

「理学部第二部：キャリア発達セミナー」の計画に基づき、理窓教育会会員が講師として招聘された。

4. その他の活動（教育会主催）

① 新規採用教員予定者激励会（3月5日（土））

本学を卒業し全国の公立私立学校に新規採用の予定者を招いて激励した。

② 編集委員会

平成27年7月 第46号の発行について

平成28年2月 第47号の発行について

③ 指導委員会

教育センターが実施する教員採用試験対策講座 [3年生対象(秋) 合宿(3月) 4年生対象(春)] へ講師を紹介した。講義内容検討会(7月)を行った。私学教員採用対策講座(1月)

キャリアセンター(就職課)が実施する教職ガイダンス [4年生対象(4月) 3年生対象(11月)] 及び面接指導(2次試験対策)への講師を紹介した。

④ 研修委員会

東京都管理職選考第一次選考合格者への面接指導を実施した。

以上

第2号議案 平成27年度会計報告(案)
平成 27 年度 会計

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

[収入の部]

科 目	予 算	決 算	比較増減
前年度繰越金	144,418	144,418	0
納入会費	250,000	256,240	6,240
理窓会正会員協力金	10,000	9,900	-100
雑収入・利息他	10	10,017	10,007
合 計	404,428	420,575	16,147

[支出の部]

科 目	予 算	決 算	比較増減
交通費	60,000	55,000	5,000
慶弔費	20,000	0	20,000
会議費	2,000	0	2,000
支部長会積立金	0	0	0
事務費	7,000	5,058	1,942
会報印刷費	130,000	136,296	-6,296
郵送費	95,000	99,794	-4,794
記念品代	0	0	0
ホームページ更新等	20,000	0	20,000
予備費	70,428	0	70,428
小 計	404,428	296,148	108,280
次年度繰越金		124,427	
合 計	404,428	420,575	

第4号議案 平成28年度予算(案)
平成 28 年度 予算

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

[収入の部]

科 目	予 算
前年度繰越金	124,427
納入会費	250,000
理窓会正会員協力金	10,000
雑収入・利息他	10
合 計	384,437

[支出の部]

科 目	予 算
交通費	60,000
慶弔費	20,000
会議費	2,000
支部長会積立金	0
事務費	7,000
会報印刷費	140,000
郵送費	100,000
ホームページ更新等	20,000
予備費	35,437
合 計	384,437

※ 納入会費 1,000円×268口 - 口座徴収料金 11,760円 = 256,240 円。

[口座徴収料金内訳 130円×64通, 80円×43 通, , 0円×20通 (現金納入等)]

※ 収入の部「雑収入・利息」欄の10,017円は東京支部からの通信費負担金10,000円と利息17円。

※ 会報印刷費支出には、角封筒代19,000円を含む。

※ 支部長会積立金は、次年度の運営を考慮し、予算の通り0円とする。

※地区別支部長会費会計 平成27年度会計報告及び平成28年度予算(案)
平成27年度 会計

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

[収入の部]

科 目	予 算	決 算	比較増減
前年度繰越金	932,273	932,273	0
本年度会計より	0	0	0
受取利子	250	204	-46
合 計	932,523	932,477	-46

[支出の部]

科 目	予 算	決 算	比較増減
地区別支部長会費	250,000	0	250,000
予備費	682,523	0	682,523
小 計	932,523	0	932,523
次年度繰越金		932,477	
合 計	932,523	932,477	

[収入の部]

科 目	予 算
前年度繰越金	932,477
本年度会計より	0
受取利子	200
合 計	932,677

[支出の部]

科 目	予 算
地区別支部長会費	250,000
予備費	682,677
合 計	932,677

会 計: (各担当理事) 齋藤常男 澁谷重雄 小林 博

会 計 監 査

監査の結果、正確・適正であることを認めます。

平成 28 年 5 月 11 日 監 査 細川秀夫 田村清志

第3号議案 平成28年度 活動計画（案）

1. 東京理科大学理窓教育会総会

平成28年理窓教育会総会は、「書面総会」方式とする。昨年度と同様に各支部長に議案を送付し、意見等をアンケートの形で回答してもらい、それを本部で集計し、会報第48号に詳細を掲載して、書面で承認をしてもらうこととする。

2. 各支部総会

各支部で実施する。実施状況を、会報第49号に掲載する。

3. 地区別支部長会

地区別支部長会を実施する。開催を希望する地区の副会長は開催日、開催地等を本部に申し出る。

4. 会報発行

第48号、第49号を発行する。

5. 財政の健全化に向けて

財政の健全化を期して会費納入者の増加を図る。

会報發送宛先ラベルの右下部に会費納入最終年度の数字を記載し、会員の納入年度の確認に利用できるようにした。各支部では、本部への年会費（1名あたり1000円）の納入の呼びかけを一層進める。

6. 会員の拡大

同窓の教員に会報を送付し、会の活動を紹介し、会員の拡大を図る。

7. 大学との協力促進

① 教員希望学生への指導、採用試験等の情報提供については従来通り実施し、多くの後輩が教職に就けるよう協力する。

キャリアセンター（就職課）ガイダンス、面接指導への講師派遣、教育センター講座への講師派遣等の協力をする。

② 東京理科大学維持拡充資金（第二期）事業への協力。

ア. 趣旨に賛同し、その募金活動を継続推進する。

③ 大学の学生募集の協力。

ア. 学生募集広報に協力する。

イ. 第二部推薦入学の広報に協力をする。

④ 公立学校採用第二次選考試験及び私学採用試験対策講座等への面接指導講師派遣に協力。

⑤ ホームカミングデー運営への協力

⑥ 坊っちゃん科学賞の審査・発表会への協力

8. 教育管理職受験者支援（東京支部主催）

ア. 管理職受験希望者への研修の、新しいあり方の検討をする。

9. 新規採用教員予定者激励会

全国の公立、私立学校教員採用試験に合格した学生を招待し、激励会を開催する。

以上

総会 総括

平成 28 年度理窓教育会総会は、昨年度と同様「書面総会」の方式をとらせていただきました。従いまして、議案に対するアンケート形式を採り、全国支部長の皆様の意向を集約させていただきました。

◎ 集約の結果

回答のあった支部数 17 (昨年度 18)

1号議案 賛成 17 反対 0 白票 0

2号議案 賛成 17 反対 0 白票 0

3号議案 賛成 17 反対 0 白票 0

4号議案 賛成 17 反対 0 白票 0

① 議案に反対する意見は 0 です。

② 以上、賛成、反対、白票および参考意見を吟味しまして、各議案のすべてをご承認いただいたことにさせていただきます。

以上、平成 28 年度総会は、各支部長等皆様のご協力により、無事終了させていただくことができました。皆様方のご理解とご協力に厚くお礼申し上げます。

ご意見等のあった支部数 3

- ・ (奈良) 支部別教職関係者名簿を作成してほしい。
- ・ (岡山) 新規採用教員予定者激励会をこうよう会支部とも連携して実施できるようにしたい。
- ・ (大分) 特に理窓会と教育会を別々の冊子にする必要性はない。地方では教職員のみのは少し無理だと思う。

※いただいたご意見等は 10 月 7 日の定例理事会で検討をする予定です。

理窓会 東京支部総会報告 東京支部副支部長 廣瀬 和昭 (48S)

平成 28 年度理窓会東京支部総会および報告会・講演会・懇親会は 5 月 22 日(日)13:30 から東京理科大学神楽坂校舎 1 号館 17 階記念

講堂で開催された。当日は好天に恵まれ、約 100 人が参加した。

【総会】 総会は植木キク子東京支部長の開会挨拶で始まった。植木支部長は 27 年度で任期満了であったが、再任された。植木支部長は挨拶の中で、理窓会発展の源は東京支部が重要な役割を担っているの、母校愛を持った会員数を増やし大学発展のために結束して運営に寄与していきたいと抱負を語った。

審議事項の①27 年度活動報告、②27 年度収支決算報告、③監査報告、④28 年度活動計画案、⑤28 年度予算案を出席者全員賛成にて可決させた。

【報告会】 まず本山和夫理事長より「大学の現状」について PP を使って将来構想が発表された。本学の実力主義を基本に、少子化対策として学科の再編を一層活発化させていく。次に石神理窓会会長より 10 月 30 日に開催される第 11 回ホームカミングデーへの協力を求めた「理窓会の活動報告」、維持会の森野会長より重要な働きをしている「維持会の報告」があった。

【講演会】 (理窓教育会東京支部との共催)

講師 馬場 錬成氏 (40 理・数)

演題 「大村先生の研究人生とノーベル賞」

2015 年 10 月にノーベル生理学・医学賞が発表された同窓の大村智先生の社会貢献について解説した。アメリカのメルク社と共同研究するまでのご苦労話とイベルメクチンという新薬の開発が人類の命をどれだけ救ったかを細かく解説した。

【懇親会】 (理窓教育会東京支部との共催)

会場は 1 号館 17 階大会議室。藤島学長、首都圏 3 支部を代表して千葉支部眞田孝則支部長、こうよう会梅原たまき会長、同東京都支部須貝太支部長よりご祝辞をいただいた。参加者は懇親を深め、9 月 25 日開催の「秋季大会報告会・講演会」にまた再会できるように確認して、理窓教育会富岡会長の挨拶で閉会した。

理窓会 支部長会報告 理窓会副会長 坂本 功(41S)

理窓会支部長会が6月26日(日)神楽坂校舎1号館17階大会議室で行われました。

今年の支部長会は「支部活動力の活性化策～支部活動参加者の増加策～」というテーマで話し合われました。

各支部からさまざまな取り組みや、活性化させるための工夫が報告されました。

地域が広い県での、地区別の会議、開催地区を持ち回り等の工夫。他支部との交流、こうよう会との連携。ユニークな取り組みも紹介され、和やかな中にも充実した会となり、今後の支部活動の大きな示唆となる会となりました。

理窓会 代議員総会報告 理窓会常務委員 小久保正己(44S)

梅雨の晴れ間、過ごしやすい天気の中、6月26日(日)午後1時より神楽坂キャンパス1号館記念講堂で、平成28年度理窓会代議員総会が開会された。

まず、来賓を代表して本山和夫学校法人東京理科大学理事長から「日本の理科大学から世界の理科大学を目指す本学にとってイノベーションを巻き起こすことのできる人材を輩出していくことが重要な使命である。そのために次の3点に取り組んでいく。①学部・学科の再編成 ②グローバル化にあたり、国際交流を増やす ③産学連携を推進する。また、キャンパスの整備を進め、本学を価値ある大学にするために努力していきたい。」との挨拶があった。

続いて、石神会長より「理窓会の目的は本学の応援と同窓会員の交流と人脈が大きな目的である。当面の課題として、(1)大きなコミュニティの形成 ①理窓会ホームページの充実 ②Facebookの活用 ③情報紙「TUS Alumni today」と機関紙「理窓」の発行 ④グループウェアメールの活用 (2)支援活動の

拡充 ①支部活動の活性化支援 ②理科大生の再就職支援 ③在学生への支援 ④キャリア教育で先輩との交流 ⑤「こうよう会」の支援 ⑥海外支部の支援 ⑦女子部会の支援 ⑧学部・学科への支援。これらのことを理窓会の組織をあげて取り組んでいこう」と力強い所信表明があった。

その後、総会次第に則って議事に入った。議事の進行は議長として石神会長が行った。それぞれの議案は総会資料を用いて丁寧な説明がなされた。活発な審議がなされた後、それぞれの議案が満場一致で承認された。

「坊っちゃん科学賞研究論文 コンテスト」について 実行委員長 坂本 功(41S)

「坊っちゃん科学賞研究論文コンテスト」は今年で8回目を迎えます。昨年度より、主催者が東京理科大学理窓会から東京理科大学に変更となりました。運営は今まで通り理窓会にまかされました。4月に全国約2千の高等学校に応募案内を発送しました。また理窓会のホームページでも、応募要項や過去に受賞した高校や研究題目も見られます。

8月31日に応募論文の提出を締め切り、9月10日に物理、化学、生物、地学、数学、情報、その他の分野に分かれて約30人の理窓教育会の先生たちが分野別審査を行いました。優秀賞の候補の高校の中から、9月16日大学の先生方により5校の優秀賞の高校を決めました。この5校が10月30日のホームカミングデー当日、プレゼンテーションを行います。秋山仁先生が審査委員長になり発表会の審査を行い、晴れの最優秀賞の高校が決定します。

その後、応募研究論文を全て掲載した作品集を作成する予定です。

山梨支部総会報告 支部長 橋田多喜夫(53理・物)

山梨支部総会は、毎年理窓会山梨支部総会

と合同で開催しています。本年度は平成 27 年 10 月 10 日（土）15 時から甲府市「ニュー芙蓉」で、14 名の参加で開催しました。

来賓として、東京理科大学常務理事池北雅彦先生、理窓会副会長渡邊一郎先生、東京理科大学理事・維持会会長森野義男先生、諏訪東京理科大学学長河村洋先生、こうよう会山梨支部長餌取正人様をお招きしました。

本年度も支部総会に先だつて、講演会を実施しました。今回は理窓会山梨支部長奥村一利氏が「人口減少社会を考える」と題して、山梨県内市町村の人口の今後の課題等について講演されました。特に、建物の更新費用から維持の困難さなど、建築家の視点からの指摘は興味ある内容でした。

総会では、大学、理窓会、諏訪東京理科大学からそれぞれご挨拶をいただきました。池北先生からは、ノーベル賞受賞が決まった大村智先生と理科大とのつながりなど話されました。大村先生は山梨県韮崎の出身であり、先生の偉業は、山梨支部会員にとって大きな喜びであり、誇りに思っています。また、大学の現状と、世界に冠たる大学に向けて国際競争力の強化など、今後の展望についてお聞きしました。今、大きく発展を続けている母校の現状を知り、非常に頼もしく思っております。

餌取正人こうよう会山梨支部長からは、山梨県におけるこうよう会の活動をお聞きしました。また、総会への出席会員増加の方策として、こうよう会組織を活用して、在学生・卒業生に同窓会組織の存在を知らせるために、理窓会・理窓教育会とこうよう会が、今後いっそう連携を深めることが確認されました。

岡山支部総会報告

支部長 三浦康男(46 理工・数)

昨年 7 月に、理窓教育会岡山支部を設立して、早 1 年が過ぎました。設立に際して、総会は理窓会岡山支部の総会とは兼ねず、会員

の参加を得やすい、学校の長期休業中に開催する。」ことを決めましたので、去る平成 28 年 7 月 30 日（土）に、約 2 時間、岡山市内で開催いたしました。

今年は開催期日が、岡山県を中心に開催されている、全国高等学校総合体育大会の期間と重なり、高等学校管理職等の参加が無理となり、現職の中学校管理職や教諭、元学校の管理職や行政経験者など 7 人が出席しました。協議内容は、今年 6 月に開催された「こうよう会岡山県支部」の懇親会において、「教員希望の学生や採用試験合格者との懇談などの要請があれば、対応をお願いしたい」とのことでしたので、この件について協議し、残りの時間は歓談にしました。

教員希望の学生との懇談の対応には、現職の校長、教頭、教諭、教育行政経験者、元校長などが当たることにし、懇談の内容については、要請があった時点で検討することにしました。幸い岡山支部は、教育行政の経験がある現職校長、元校長、部活動に業績を上げている校長や教諭など、人材に恵まれているので、十分対応できると思います。残りの時間で歓談をしましたが、生徒指導上の問題や対応、部活動のことなど話は多岐にわたり、時間が経つのを忘れる充実した 2 時間となりました。

新任教員の抱負

山手学院中学校・高等学校

教諭 賀谷 浩太郎(平 27 理・修数)

私は平成 27 年 3 月に科学教育研究科を修了し、4 月から神奈川県にある山手学院中学校・高等学校に勤務しています。現在私は中学 1 年生の副担任をしており、小学校を卒業したばかりの生徒たちと慌ただしい毎日を送っています。初めての電車登校や小学校より多い教科数・授業時間数、さらには部活動と、様々な経験を通じて日一日と成長していく生徒たちとの生活は、私にとっても非常に刺激

的なものとなっています。根気強く指導を続けた生徒が授業や行事に積極的に取り組むようになった姿を見ると、「自分もさらに頑張ろう」と思わせてくれ、教師という仕事のやりがいを感じさせてくれます。

中高一貫校で勤務しているため中学 1 年、高校 2・3 年生の授業を担当しており、放課後や休日は授業準備に追われていることがほとんどですが、生徒たちの興味をひくような教材のネタを探すために常にアンテナをはり続けたり、生徒の志望校合格のために自分にできることは何か、彼らに伝えるべき内容は何かを考え続けたりする日々は充実感に溢れています。

また部活動で生徒たちと関わっている時間はかけがいのないものです。現在は軽音楽部の顧問をさせていただいているのですが、教室の中とは違う生徒たちの顔を見たり、微力ではありますが生徒たちの演奏活動のサポートをさせてもらっている時間は、忙しい教員生活におけるオアシスとなっています。

教科指導や生徒指導、分掌の仕事など至らない点はまだまだありますが、先輩教員の方々に少しでも追いつけるよう日々努力を惜しまず、一步一步教員としての力量を高めていきたいと考えています。

自由学園女子部（中等科・高等科）

教諭 鈴木 雄紀（平 27 理・数 2）

私はこの 4 月より、東京都東久留米市にある自由学園女子部で教員として働いています。自由学園は「生活即教育」を教育理念とする、幼稚園から大学部までの一貫教育の学校です。中等科・高等科のみ男女別学で、男子部と女子部に分かれています。また、中等科以上には寮があり、全国から生徒が集まっています。

教壇に立って 5 ヶ月が過ぎ、実感していることの一つは、目の前の生徒一人ひとりに合った指導を行うことの大切さと難しさと面白さです。今年度は、女子の中学 3 年生と男子の高校 3 年生の数学を担当していますが、男女によって、学年やクラスによって、生徒の

反応は全く違います。また同じクラスの中にも様々な生徒がいます。このクラスにはどのような授業がよいか、授業ごとに説明の仕方や問題を変えたり、議論の時間や、カラフルな教具を作ったり、生徒の反応を見ながら試行錯誤の連続ですが、「汎用性のある授業」ではなく、「目の前の生徒にとって良い授業」を作り上げていくことに、教師としてのやりがいを感じます。

授業以外では、女子部中等科 3 年生の副担任をしています。そこでの一番の課題は生徒理解です。男子校出身である私にとって、生徒たちが何を大切に、問題にし、感じているか理解することは、中々難しいことです。生徒と話をしたり、一緒に働いたり運動したり、部活の試合を観に行ったりする中で、少しずつ様子は分かってきたと思いますが、まだまだ生徒と向き合わなくてははいけません。それは言葉ほど簡単ではなく、自分が傷つく覚悟を常に持ち、生徒の言葉から真実を汲み取る深みがなくてはできないことだと感じます。

教師としての課題は沢山あります。しかし大変なことばかりではなく、天真爛漫な生徒たちや他の先生方に支えられ、充実した毎日を過ごしています。そのことに感謝しつつ、自らを鍛え、自らの使命を果たしていきたいです。

東京都立葛飾野高等学校

教諭 並木 康訓（平 27 理工・数）

平成 27 年 3 月に理工学部数学科を卒業し、現在、数学科の教員として東京都立葛飾野高等学校に勤務しています。1 学年の副担任で、校務分掌は教務を、部活動は軟式テニスと和太鼓を担当しています。

当初は仕事の内容や事務手続きに不慣れな日々が続きました。今では、自ら先輩教員に仕事を求め、実践するなかで、少しずつ教員としての技量を身に付けています。担当した仕事の概要や方法は、必ずメモをとります。時々、読み返し、先輩の先生に助言をいただきながら、取り組んでいます。

授業では、生徒の声に耳を傾け、つまづきやすいポイントや質問された内容を分析し、どのように説明すべきか工夫に努めています。実践と反省、見直しと改良の毎日です。

大学時代の印象的なことは、次の3点です。

1点目は、野田の体育局ゴルフ部に所属し、葛飾キャンパスでもゴルフ部を設立したことです。ゴルフを通して、気配りやマナーを学びました。今年3月に、理窓教育会の先生方とコンペに行ったことが思い出に残っております。

2点目は、大学2年次から参加した都立高校での授業支援と勉強合宿です。生徒への接し方をはじめ、指導の基礎を学ぶことができました。お世話になった先生方と、現在も交流させていただけることに喜びを感じます。

3点目は、教員採用試験合格のために、先生方にご指導いただいた日々です。野田で毎年行っているゼミの運営に携わり、素晴らしい先生方、同期、後輩に恵まれたことは、大きな財産です。私の勤務校の校長も理科大のOBです。世代を超えて、理科大が私を結んでくれることに有難い思いでいっぱいです。

都立葛飾野高校では、さらなる学びを求める生徒のために、進学校化を進めています。その一助として、夏休み及び冬休みの勉強合宿を企画しています。もし、理科大のセミナーハウスを活用できれば嬉しいかぎりです。校長はじめ多くの先輩のアドバイスをいただきながら、実現したい抱負です。

長野県屋代高等学校

教諭 倉田 亮輔 (平 26 理・物)

私は平成27年4月より長野県立屋代高等学校にて理科教諭として勤務しています。屋代高校は長野県の公立高校で数少ない中高一貫高校であり、理数科が設置されているSSH指定校でもあります。教員の人数も多く、中学生と高校生を合わせると千人近くの生徒数になります。自然に囲まれた立地であり、落ち着いた雰囲気のある学校です。ホームページも先日リニューアルされ、日々更新されていますので、詳しくはそちらをご覧ください。

もともと出身が長野県で、実家が現在勤務している屋代高校の近くだったこともあり、通勤などにはあまり困りませんでした。しかし実際に教員として働いてみると、校務や研修・班活指導など、授業以外にも多くの仕事があることがわかりました。毎日が忙しいですが、授業の中にどんな実験を組み込もうか、授業の流れはどのようにかといつたことを考え実践することにやりがいを感じています。教材を作るのに時間はかかりますが、実験を通して体感させることによって、生徒も反応を返してくれます。分からないことや失敗することもあります。周りの先生方に聞けば丁寧に教えてくれます。日々自分の至らない点に気づき反省していますが、新しいことに挑戦する気持ちを忘れずに今後の教員生活を送りたいと思っています。

この半年間を振り返ってみると、初めてのことで非常に密度の濃い半年だったと感じています。その中で大学や大学院で学んだことが現場で活かしていると感じる場面が多々ありました。私は4年生以降、理学部物理学科川村研究室に所属していました。そこでの研究や学んだ実験・授業法が、授業や課題研究指導、あるいは校務に至るまで様々な場面で役立っています。指導していただいた川村教授をはじめ、教職課程支援室の先生方に感謝するとともに、私もこれからの時代を担う生徒を育てていけるよう努力したいと思っています。

名古屋市立名古屋商業高等学校

教諭 西山 由利子 (平 27 理・数情)

私は大学卒業後、生まれ育った名古屋に戻り、4月から名古屋市立の高校教員として働いています。高校生の頃から夢見ていた教師という仕事に就くことができ、幸せです。もちろん楽しいことばかりでなく、辛いこともあります。生徒や周りの先生方に助けられ、楽しく充実した毎日を送っています。今このような日々を送れているのは、大学時代に支えて下さった理科大の先生方のおかげです。

私の勤務校は商業高校です。本校では、時

間割の約半分が簿記などの商業科目であり、高校卒業後の進路は約 6 割が就職です。就職する生徒は高校卒業後すぐに社会に出るため、日頃の挨拶、時間、提出期限などには特に厳しく、将来を見据えた教育をしています。また教員だけでなく、生徒の就職や進学に対する考え方も普通科高校とは違うため、生徒から学ぶことも多くあります。普通科高校出身である私にとって、商業高校に勤務したことが、自分の生きてきた世界と違う世界を知り、広い視野をもつ良い機会となっています。

授業は、同じ内容でもクラスによって上手くいかなかったり、理解してもらいやすい単元とそうでない単元があったりと、試行錯誤の連続です。苦勞することも多くありますが、生徒からの「ありがとう」という言葉や生徒の笑顔が何よりも嬉しく、また頑張ろうという思いが湧いてきます。先生方も相談に乗って下さったり、仕事に追われていると差し入れを下さったり、優しく声をかけて下さる先生方ばかりです。

まだ教員生活は始まったばかりですが、毎日苦勞することや悩むことがある一方で、嬉しいことも数え切れないほどあり、やりがいを感じています。これから今以上に楽しい経験や、大きな壁にぶつかることもあると思いますが、初心を忘れず、またそれらの経験を糧にして成長していきたいです。

神奈川県三浦市立南下浦中学校

教諭 柳原 美波 (平 27 理・数)

私はこの 3 月に理学部数学科を卒業し、現在は三浦市立南下浦中学校で 1 年生の副担任をしています。学校の窓からは東京湾が見渡せます。

三浦の生徒たちは、とても素直で元気が良いです。嬉しいことがあれば、満面の笑みで話をしてくれます。辛いことや嫌なことがあると、全身を使ってその気持ちを表現するパワフルさがあります。一見、落ち着きが無いように思えますが、この素直さが自分自身の成長には欠かせないと思います。例えば、教科の授業です。わかりづらいところがあれば「わ

からない。もう 1 回説明して！」と言います。このような言葉に、戸惑う時期もありました。きっと、毎回の授業を無事にこなすことについていっばいっばいで、自分のことしか考えられていなかったのだらうと思います。しかし、生徒たちのこのような発言が「もっとわかりやすく説明するためにはどうしたらよいだらう」「ここは、きっと躓くな」など、今まで以上に生徒のことを考えるようになったように感じます。そして、「先生頑張ってるね」「わかりやすかったよ」「できたよ！」という言葉は何よりの支えになります。生徒たちは、私自身を成長させてくれる小さな先生のような存在だと感じます。

また、就職してからの 8 か月を振り返ると授業以外にも、生徒指導や生徒との関係づくりに悩むこともしばしばありました。その度に、学年職員をはじめ多くの先生方に支援していただいています。「指導がうまくいかなくてもいい。そのときは、しっかりフォローするからなにごとも経験しなさい」と、指導や担任代理・学活・総合などを受け持たせてくれます。

未熟な私ですが、多くの先生方の支えのもと、日々勉強をして生徒たちにとって最善の指導ができるように努力していこうと考えています。また、教員であると同時に 1 人の魅力ある大人でいられるように、周囲の方々への感謝の気持ちを大切に今後も努めていきたいです。

東京都世田谷区立駒沢中学校

教諭 佐野 貴之 (平 27 理・数)

学校への「通勤」が始まってからというもの、今日にいたるまで、とにかく毎日必死です。

取り組むべき仕事は、文字通り山のようにあります。さあやるぞという時に限って、生徒はトラブルを起こします。どの事案の優先度が高いのか。明確な正解があるとも限らない問題に対し、その場その場での、迅速かつ柔軟な対応が求められます。フレッシュマンである私が言うのもおこがましいですが、

「大変か」と言われれば大変です。が、それ以上に、「楽しいか」と言われればたのしいです。

結論から言って、生徒のことを好きであれば楽しい職業だと思います。好きでなければつらいという意味ではありませんが、少なくとも私はやはり、「生徒とのやりとり」、「生徒の成長」の中に、やりがいといえるものを感じているように思います。

できないことばかりで、長い一日を過ごす日々でしたが、振り返ると「あっ」という間の一年間でした。「あと 10 か月以上もあるのか」と、出勤簿に押印しながら思っていたのですが、残りもわずかとなると、名残惜しくて仕方ありません。今担任している生徒との別れの辛さはひとしおです。もう 2 年間、同じ教室で過ごしていたいとさえ思っています。ですが、この職の定めです。毎年この思いを味わうのでしょうか。見ようによっては、きちんとこの気持ちを味わうことができればそれは、初心を忘れずにいられているということなのかもしれません。

さて、この仕事は、一日として同じ日がありません。似た日さえ存在しません。それゆえ、毎日が挑戦・試行錯誤の繰り返しですが、楽しくがんばっております。

私には、思う理想があります。その実現に向け、これからもこの熱意を胸に、日々努めて参りたいと思います。

横浜市立谷本中学校

教諭 小林 佑司 (平 27 理・数)

私は平成 27 年 4 月から横浜市の中学校で個別支援学級の担任を務めています。個別支援学級とは、障がいのある子どもたちを指導するために中学校に設置されている学級のことです。当初は数学科での配属を予想していただけに個別支援学級を任されたことは戸惑いと不安があったのを今でも覚えています。私は個別支援学級についての知識をあまり持っていないため、戸惑いながら入学式を迎えました。しかし、どの生徒も素直で明るい姿を見てく安心するとともに担任をする楽しみを

感じました。

個別支援学級の理念の一つに“自立”があげられます。子ども達が社会に出ても自分の力で生活できる力を身につけさせることが担任としての使命です。例えば、授業として洗濯をして服を干し、たたむまでの流れを学びます。また、調理実習も多く取り入れています。当然、各教科の授業もあります。勤務校では、英語、社会や理科といった教科は専門の先生が授業をしてくれます。その間、私たちは T T (ティームティーチング)として子どもたちを支援します。このため、担任は生徒が登校してから下校するまで常に一緒に生活します。その分、子どもたちの特性を細かく把握することにつながります。それが、日頃の指導に生きてくるとともに私自身の勉強にもなっています。個別支援学級でしか学べない貴重な経験をしていると自負しています。

教師になってから子どもと共に笑って過ごすことで幸せに感じています。しかし、慣れないことが多く、悩みを抱えることも少なくありませんでした。そんなときには同じ個別支援学級の担任の先生方や理科大の友人に相談することで乗り越えてきました。私自身、まだまだ課題があります。それでも、努力を積み重ねて一歩ずつ理想の教師への道を進んでいきたいです。

日本大学第一中学・高等学校

教諭 須藤 拓実 (平 27 理・数)

私は平成 27 年 3 月に理学部数学科を卒業し、4 月より日本大学第一中学・高等学校に数学科教諭として勤務しています。日大一高は両国にあり、交通の便が良く、駅からも徒歩 5 分の距離にあります。この学校に入ってくる生徒の多くは日本大学への進学を希望しており、授業も日大進学クラスと他大進学クラスと分かれて開かれています。高大連携も盛んに行われており、大学の授業を体験する機会にも恵まれている学校です。

初めのうちは全てが手探りで日々を過ごしていました。よく言われているように、教師

の仕事は授業だけではありません。私は入試広報部という部署に勤めています。これは、私立の学校特有の部署です。入試広報部は説明会用の荷物の準備、本校入学を希望している保護者への募集要項やパンフレットの送付、ホームページ更新など様々な仕事があります。この仕事は多忙です。説明会が多く開催される夏は、入試広報部の仕事の傍ら、授業を行っていると言っても過言ではありませんでした。しかし、他の先生の協力でようやく仕事にも慣れ、授業にも力を入れられるようになってきて、今とても充実しています。生徒が少しでも「数学っておもしろい」と思ってもらえるような授業を心がけています。日常に使われている数学の例、昔の数学者の逸話など様々なことを調べながら生徒に伝えることはとても楽しいです。いろいろな生徒と関わり、怒ったり笑ったりしながら忙しい日々を過ごしています。

授業も入試広報部の仕事もまだまだ未熟ですが、周りの方々のおかげで何とか精一杯取り組んでいます。教員生活はまだ始まったばかりなので、毎日勉強の連続です。少しでも早く学校の戦力になれるようにがんばっていききたいです。

千葉県松戸市立第五中学校

教諭 高津 健太 (平 27 理・数)

私は現在、千葉県松戸市の公立中学校で勤務しています。社会人、教員として1年目で、右も左もわからない状態だった4月に比べると、少しずつ慣れてきたところです。周りの教員仲間にも恵まれ、毎日を楽しく過ごせています。3月に行われた、3年生を送る会では、学年担当として、学年全員で劇と合唱を作り上げることができました。生徒たちもいい表情で活動することができていて、本当にいい経験になりました。

まだまだ未熟な私ですが、教員として気を付けていることが二点あります。

一点目は、生徒がいる時間は、とことん生徒と一緒にいるということです。教員は授業だけでなく、その他にたくさんやることが

あります。時間がいくらあっても足りないくらいですが、生徒が学校にいるときは、生徒と一緒に活動するようにしています。そこで、大切にしているのが優先順位です。生徒がいるときにしかできないことと、帰ってからでもできることを区別して、効率よく仕事をすることを意識しています。うまくいかないことも多々ありますが、登校から下校までの間、命を預かっていることを常に心に刻んで、安心して生活できる学校づくりに励んでいます。

二点目は体調管理です。最初の研修で、「どんなにいい授業の準備をしても、授業者の体調が悪かったらいい授業はできない。」と言われたことがとても心に残っています。どんなに仕事が忙しくても、3食の食事と睡眠時間には気をつけるようにしています。また、部活動では生徒と一緒に汗を流したり、休みの日には出かけたりして、リフレッシュすることを大切にしています。

この二点を意識しながら、私自身も楽しみながら教員生活を送っていきたいと考えています。来年度は担任としても、貴重な中学校生活を少しでも充実することができるよう、魅力的な教員になれるように努力したいと思います。

埼玉県立久喜北陽高等学校

教諭 長神さやか (平 28 理工・応生)

今年の3月に東京理科大学理工学部応用生物科学科を卒業し、4月から埼玉県の久喜北陽高校に勤めています。総合学科の高校で、文系・理系に加えて総合コースが設けられ、看護医療志望者や専門学校志望者、就職志望者にわかれています。みんな素直な生徒たちで、日々部活に勉強に励み、学校行事にも一生懸命に取り組んでいます。

私は高校まで愛知県で過ごし、大学進学を機に理工学部のある千葉県へ移り、さらに就職を機にここ埼玉県へ移りました。新社会人、新しい土地、初めての学校、環境の変化に戸惑うばかりの4月はあつという間に過ぎてきました。社会人としても教員としても何も

わからない私に、指導教官の先生のみならず担副を組んでいる先生、同じ学年・分掌・部活の先生方はたくさんのことを教えてくださいました。体調や精神的な面も気にかけていただき、おすそ分けをいただいたり話を聞いていただいたりもしました。

現在は3学年の副担任を担当し、進路指導部に所属しています。授業は1年生と3年生を担当し、そのかたわら弓道部の副顧問として指導や大会の引率をしています。授業は学年がかわれば授業のスピードやスタイルもかわり、生徒たちに必要なところを取捨選択することも必要で、教科指導の難しさを実感する日々です。プリント1つとっても、イラストの使い方、書き込ませ方等工夫できる場所は山ほどあり、自分にはまだまだその引き出しが少ないなと気づくこともできました。分掌の仕事も、3学年団にいることもあり、ひっきりなしに進路行事や生徒対応におわれています。そんな毎日のなかでも、授業中の「わかった!」という生徒の表情や部活動中の「できた!」の声、そして近い未来に「叶った!」と嬉しそうな表情の生徒を見るために、これからも微力ながら努力していきたいと思えます。

東京都国立市立国立第八小学校

教諭 大久保 遥峰 (平 28 理・応化)

私は平成28年3月に理学部応用化学科を卒業し4月1日より、国立市立国立第八小学校に勤務しております。1年生の担任となり、校務分掌は活動部を、クラブ活動ではパソコンクラブ、委員会活動では図書委員を担当しています。着任早々、右も左も分からない状態で入学式の準備に追われました。慌ただしくも入学式を終えると登下校の仕方や椅子の座り方、列の並び方、話の聞き方、トイレの使い方など細かなことでも、全て1からの指導が始まりました。子供たちが学校から帰ると、すぐに学年便りの作成や入学時に提出された書類の整理など他の先生方に助けをもらいながらどうにかこなしていました。授業では、ひらがなを覚えること、数字を覚えるこ

とから始まり、知っていて当たり前のことをどのように指導していくかという難しさを感じました。私としては全てが驚きの連続でした。当初は毎日を楽しむ余裕がなく1日をただ乗りきることでも精一杯でした。しかし、5月頃になって次第に子供たちの個性が見え始めたり、授業をどう改善していくかが明らかになったりしていくことで、小学校で働くことの面白さを実感し始めました。

私は学級経営研修生として、心から尊敬できる新人育成教員の先生にマンツーマンでついてもらい、授業や学級指導など様々な面でアドバイスを頂けるという状況にあります。また、本校には東京都内でも指折りの実力を備えた理科を専門とする教員がおり、理科教育についての勉強を十分にできる恵まれた環境にいます。

まず短期的な目標としては、この一年で勉強を積み重ね、授業力や学級経営をするために必要な資質能力をしっかりと高めていきます。中長期的な目標としては、私が東京都が進めている小中高の一貫教育に私自身教員として携わっていきたいと考えています。

滋賀県立大津高等学校

教諭 笠谷 竜太 (平 25 理・修科教)

私は平成28年4月から滋賀県立大津高等学校で理科の教諭として勤務しています。大津高校は大津市の中心地にあり、交通の便も良いところにあります。またどの生徒も部活動や学校行事を一生懸命取り組む学校です。そのような恵まれた場所で教員生活を始めました。

この3か月間を振り返ると本当にいろいろなことがありました。4月は毎日が緊張と発見の連続でした。私にとって初めての社会人・教員生活であったので、生徒や周りの先生から「そんなに緊張せんでええよ」と温かく声を掛けられるほどでした。授業ではいきなり3年生の授業を担当することになり、学校のことを良く知っている生徒に助けられながら授業を行っておりました。部活動でも、全く経験していないソフトテニス部の顧問と

なりました。ルールや打ち方などを生徒に教わりながらの毎日でした。校務分掌でも周りの先生方に聞き、学校の運営について高校生の時では見ることのなかった学校の仕組みを学び、学校ってこうなっていたのかという発見の毎日でした。5 月は毎日の生活や仕事にも少し慣れたものの、実際に働く前に思い描いていた教職に対するイメージと実際に働く中で見て感じた現実との差に対して自分がこれからどのように働くべきか考えた時期もありました。6 月は春季総体で 3 年生が引退し、それぞれが自分の想いを後輩に語った時は、胸に来るものがありました。また、教育実習生が学校で一生懸命取り組む姿を見て、私もあれから 1 年が経ったかと思うと時の流れの速さを感じるとともに、自分の教師としての働き方も今の自分にできることを一生懸命取り組めばいいというように思うようになりました。

私の教員としての人生は始まったばかりです。授業や教育活動は、生徒の 1 年間ないし 3 年間を見据えて行っていかなければいけないのと同様に、私も様々な人に学び・教わりながら長い期間をかけて教員として実践・成長し続けたいと思います。

管理職への昇格

平成 28 年度の人事異動で、多くの同窓生が管理職に昇任されました。心からお祝い申し上げます。

【秋田県】

小林吉則 57 理工物 県立稲川特別支援 校長
千葉慎作 57 理数 県立能代松陽高等学校校長
畠山真一 58 理数 県立秋田明德館高定時制副校長
吉田功 60 理専物 県立角館高定時制教頭
内藤佳史 58 理工数 横手市立増田中学校長

【群馬県】

富田忍 60 理数 県立前橋高等特別支援学校校長

【埼玉県】

奥澤克行 56 理数 県立杉戸高等学校校長
松本明 57 理数 県立日高高等学校長

池田宏 62 理工数 県立特別支援坂戸ろう学園校長

【千葉県】

高田浩 59 理物 県立犢橋高等学校長
吉田義克 59 理数 県立千葉大宮高等学校校長
岡野寛 59 理応化 県立船橋豊富高等学校校長
弘海政信 59 理工物 県立千葉商業高等学校長
佐藤仁 59 理化 県立市原特別支援学校副校長
小倉雅人 62 理数 県立土気高等学校教頭
小林洋一 4 工修化 県立湖北特別支援学校教頭
小谷野信 57 理応化 市川市立南行徳中学校長
宮部智哉 62 理数 総合教育センター指導主事

【神奈川県】

坂田輝之 58 理数 県立氷取沢高等学校校長
熊野宏之 60 理応化 県立大和東高等学校校長
森本雄二 59 理化 県立厚木東高等学校副校長
唐澤誠 58 理応数 県立えびな支援学校副校長
柴田功 62 理物 県立鶴見高等学校教頭
川又弘明 61 理物 県立二俣川看護福祉高校教頭
野沢重和 62 理応物 県立横須賀高等学校教頭
高橋秀樹 61 理工数 県立大井高等学校教頭

【長野県】

山崎裕史 59 理工数 県高校教育課主幹指導主事

【大分県】

江藤義 53 理工物 県立大分西高等学校校長

【東京都】(管理職選考試験合格者) (校長選考)

花房康之 58 理工数 東久留米市中央中
大友敬三 57 理工数 小金井市立東中学校

以上、名簿到着の都道府県のみ掲載です。東京は管理職選考試験合格者です。

同窓の活躍

「駆け抜けた第一の人生」

前埼玉県立伊奈学園総合高等学校長
足立 哲也 (54理・数)

本年 3 月末をもって、埼玉県立伊奈学園総合高等学校を最後に定年退職いたしました。理大卒と同時に埼玉県に奉職してから、県立高校教諭 2 校 15 年、県教委等教育行政 4 か所 12 年、学校管理職 4 校 10 年を数えました。

思うに、どの職も諸先輩とスタッフに恵まれ、痛烈に叩かれた経験も今となっては愉快的出来事だったと飲み込んでおります。このうち、自分の考え方が広がったと感じたところを書き出してみたいと思います。

自分の高校生時代は遊びほうけており教員の眼からすると悲惨で、大学入試の数学は、試験時間内に一つひとつ公式を導き出して解いていた有り様でした。2校目の教員時代にやっと学習指導要領の存在を感じ、授業と結び付けることができました。

次の職場は人事を扱うところでしたが、国から教職員定数を少しでも獲得するため知恵を絞っており、良い教育のためにはとてつもないアイデアもやり通すべきであることを知りました。教職員定数は、学校規模が小さいほど手厚いのですが、普通校の三倍規模の超巨大校を学校改革の目玉とした全国教育長協議会の提案を生かすには、一校で普通校の三倍の教員定数が欲しい。これを当時の先輩方は、文部省等への陳情やら裏の手やらで、大規模校加配という法改正まで実現してしまいました。私が最後にその学校に着任することになるとは思ってもよかったです。

次は市立高校です。市教委は、数校の高校は目に入らず、百校ほどの小中学校しか見ていませんでしたので、高校改革はある意味で自由度が高いけれど、予算がなかなか回って来ない。首長さんの一声で、大きな動きが作れます。さいたま市立浦和高校に中学校を併設して、中高一貫教育校を作りました。倍率は 25 倍でした。

教育センターでは、義務教育と高校の文化の違いを痛感しました。小中学校の先生方は、律儀に中教審答申や文科省指示等を受け止め、積極的に生かす行動を模索しています。これに対し、高校はよく言えば、地に足を付けた現実に可能な教育を追究していました。

土曜も授業があった昔、国の施策で社会科が地歴と公民に分かれ、それぞれに必修科目を置きましたが、当時の文教族のボスの要請で、世界史だけは必修科目に指定されました。これがこの後、土曜が休みになり、

総合的な学習の時間や情報等新教科が出現することにより、実質的に履修できない科目を生み、全国的な未履修問題へと発展していくのです。高校の柔軟な対応が、脱法行為として摘発されることになっていきました。

数十年ぶりに学校に戻ってきました。基本的な職員の和が大切なことはどこでも同じでした。また、最近の学校の傾向として、地元との密接な結びつきがあります。やや政治的なお付き合いも含めて、生徒が市民へ働きかけたり、声をもらって活躍する場をいただいたりする機会を作っております。「教員の常識は、世間の非常識」と言われたいめにも、閉鎖的な社会から、外へ打って出る必要があります。地元にできたがんセンターのこけら落しに吹奏楽部を派遣したり、実際の選挙に投票所の立会人として生徒を参加させたり、百年の森植林企画に参加したりと様々です。

また、有名人とお会いする機会があることはラッキーでした。東ロボ君を開発されている国立情報学研究所教授の新井紀子先生に講義をお願いしたり、アンドロイドを世に出された大阪大学の石黒浩教授にお話をいただいたり。石黒先生は、学生たちが将来の職を考えると、「人は、できることをするものだ。」と言っておられました。

やる前からできるかどうかはわからないのだけれど、「できる」という根拠のない確信の持てることに突き進んでいくことが人の道なのではないか、と今考えております。

第二の人生は、これで行こうと思います。

(日本薬科大学教養教育センター 講師)

伊豆市教育長に就任

西井 伸美 (51 理工・数)

東京理科大学卒業後、教員の道へ。伊豆の国市立菰山小、大仁中などの校長を歴任し、2014年に定年退職。新教育委員会制度に基づき、菊地豊伊豆市長から任命を受け5月に就任した。伊豆市内では1977～82年に土肥中での勤務経験がある。伊豆長岡町出身。62歳。

(就任の経緯) 退職後も教育に携わりたい気持ちがあったので、大変な重責だと感じたが引き受けた。

(教育行政の課題) 2018 年開校予定の小中一貫校について、学校の目指す方向を今後着実に形にしていきたい。修善寺などの各中学校を統合する新中学校の計画は、子どもたち、保護者、市民のすべてが魅力を感じる中身にしていきたい。

(今後の抱負) 勉強やスポーツの苦手な子どもが楽しさを知り、生涯続けていくことのできる教育をモットーにこれまで携わってきた。教員の指導力向上を図るなどして、子どもの学習意欲を育てる現場づくりを進めたい。(静岡新聞 7 月 14 日の記事より)

銚子市教育長に就任

石川 善昭(54 理・応化)

東京理科大学卒業後、中学校教諭、教頭、校長などを経て平成 26 年から現職。葛南教育事務所長なども務めた。62 歳。

大学進学後、当初は教師になるつもりはなかったのですが、1 年生の後半になぜか、千葉県で教師になっている自分の夢を見たのです。それをきっかけに教職課程を履修し、教育実習に出向くと、それが大変に面白かったのです。こうして故郷の仙台から遠く離れた千葉県で教員生活を始めることになりました。まずは、生徒が本音で接してくれるような教師になることを目指しました。

一方で、理科の授業には徹底して力を入れました。テストの点数を上げるというよりも、理科そのものに興味を持ってもらえるよう、専門書や教育雑誌を読むなどして工夫を重ねました。身の回りの出来事を科学の視点から解説すると、生徒は喜んでくれたようです。

後に校長として小学校で 2 年、中学校で 4 年、経営に当たりました。今度は学校全体の雰囲気をつくるのが仕事だと考えました。目標の一つは、「わがままが支配しない学校」でした。わがままと個性は重なり合う部分が

あります。そこで、学校として、どこまで個性として認められるか、はっきりさせました。

「全体に厳しく個々に優しい学校」も目指しました。秩序を保つよう指導するとともに、生徒一人一人の事情を理解するようにも努めました。生徒にとっても教師にとっても居心地の良い雰囲気の学校であろうと努めてきたつもりです。

銚子市は現在では人口が 7 万人に満たない規模ですが、多い時期には市立の幼稚園が 11 園、高校が 2 校ありました。人口減少に伴い統合を進めてきましたが、教育熱心な土地柄といってよいでしょう。

本年度は月に 1 回、土曜日の午後に小学生を対象とした学習会を始めました。元教員にも現職の教員にも声を掛けたところ、快く講師を引き受けてくれました。児童 4~5 人ほどに講師が 1 人付く体制で、家庭学習の習慣が定着するよう目指しています。

(日本教育新聞「人づくり国づくり」より)

大学との連携

(460B) 榎本 成己

1 教員採用試験対策講座【直前対策コース】

今年度は、4 月 3 日、4 月 10 日、4 月 15 日、4 月 24 日、5 月 1 日、5 月 8 日に実施しました。内容は、教育課題①~⑥、教職教養①~④、専門教養①~⑧、論作文①~⑥で、直前対策として教員採用試験に直結する項目を主に演習形式で構成しました。さらに、5 月 15 日、6 月 26 日に特別論作文と専門教養模擬試験を実施しました。

これらの講座では、理窓教育会の先生方 12 名が 80 名程の学生を精力的に指導しました。

なお、一次試験で集団面接を実施する自治体向けに 7 月 2 日に特別な対策講座を実施しました。

2 教員採用試験第二次試験対策講座

教員採用一次試験を受験した学生を対象にして、教員採用二次試験対策講座を、理窓教育会の先生方 21 名が講師となり 8 月 7 日、8

日の 2 日間で集中的に実施しました。

東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、その他に分かれ模擬授業、場面指導、集団・個人面接等を行いました。熱心な学生たちの意欲に負けじと教育会の先生方が白熱した講座を展開しました。また、この講座の前後には、自主的に勉強会を行う学生たちの要望を受け入れて、特別に講習会を行いました。

例年、これらの講座を通して力をつけ、多くの学生が合格の栄を勝ち取っています。今年度も、教員志望の意欲的な学生たちが参加したので、大きな成果が得られるものと期待しています。

事務局より

1 理窓教育会事務局について

理窓教育会事務局は PORTA 神楽坂 7 階の理窓会事務室内に置かれています。

ただし、理窓教育会事務局専属の事務員がいるわけではありませんので、ご連絡は郵送でお願いいたします。

なお、お急ぎの場合には、2 の支部長等の連絡窓口にご連絡ください。

書面での連絡先

〒162-0825 新宿区神楽坂 2-6-1
PORTA 神楽坂 7F 理窓会事務所内
東京理科大学理窓教育会 宛

2 支部長等の連絡窓口

教職課程指導室 小久保正己（編集担当）

TEL 03-3260-4271 内線 2780

FAX 03-3260-1776

メール kokubo@rs.kagu.tus.ac.jp

3 理窓教育会ホームページ

「理窓教育会」と入力すると、開きます。「東京理科大学理窓会」のホームページの中に「理窓教育会」のものがああります。

ホームページアドレスは次の通りです。

<http://risoukai.com/educ/>

（編集後記）第 48 号をお届けいたします。

お忙しい中、紙面総会等でご協力いただいた支部長さん、原稿や記事をお寄せいただいた皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。有難うございました。

さて、26 年度からスタートした**グローバルサイエンスキャンパス (GSC)** は 3 年目を迎え、ますます充実した取組が行われています。28 年度の基礎コースの受講生は 63 名です。また、27 年度の基礎コースを修了した受講生のうち二次選抜試験に合格した 15 名が発展コースの受講生として、学内の研究室でそれぞれの研究課題に取り組むとともに、さらに、海外研修（ドイツ・キール大学）に参加します。

さらに今年度から**宇宙教育プログラム**が始まりました。受講生は高校生 12 名大学生 18 名で、最先端の宇宙科学技術による本物体験ができます。こうした事業を推進するためには、意欲ある高校生を推薦し継続的に支援していく高校の協力が不可欠です。

また**サイエンスリーダーズキャンプ (SLC)** は理数教員のリーダー研修で、28 年度は化学の教員が対象です。同窓教員にぜひ受講してほしい研修です。

一方で「**坊っちゃん科学賞研究論文コンテスト（高校生部門）**」は今年で 8 回目を迎えます。こちらますます応募が増えて内容も充実しています。10 月 30 日（日）のホームカミングデーが楽しみです。

当日は「**第 9 回数学・授業の達人大賞授賞式・模擬授業**」も行われます。これは算数・数学の教員が自分の授業をビデオに撮り、東京理科大学数学教育研究所に送って、審査を受けるものです。どなたでも応募できます。他大学出身の方も熱心に応募してきます。この種のコンテストは他にありませんので、全国の教育関係者から注目されています。

4 会費納入状況

下記の表の通りです。平成 28 年度は 7 月 31 日現在の納入数です。ゆうちょ銀行などの「サービス料金・手数料の改定」により、払込み料金が窓口料金は 130 円(5 万円未満)となりましたが、ATM 料金はこれまで通り 80 円(5 万円未満)です。**今後の会費払込みにつきましては、できるだけ ATM で行ってくださるようお願いいたします。**

今後とも会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、郵便払込取扱票の口座番号などは、次の通りです。

(口座番号) 00160-9-715349 (加入者名) 東京理科大学理窓教育会

(会計統括理事 (46B) 齋藤 常男)

理窓教育会 支部別会費納入数									
県名	25年度	26年度	27年度	28年度	県名	25年度	26年度	27年度	28年度
北海道		1			滋賀			1	
青森	1	1	1	2	京都				
岩手	4	3	3	3	大阪				
宮城	2	5	3	4	兵庫		5		
秋田	14	16	20	22	奈良	5			
山形	1	1	1	1	和歌山				
福島				1	鳥取	1	2	5	1
茨城	4	7	8	4	島根				
栃木	2	1	1	1	岡山			12	9
群馬	2	2	1	4	広島	27	24	26	5
埼玉	37	46	34	20	山口	1	3	2	2
千葉	30	34	32	31	徳島				
東京	64	67	68	52	香川				
神奈川	12	7	20	11	愛媛				
山梨	1	1	2		高知	1	1	1	1
長野					福岡	1			
静岡	18	16	15	10	佐賀	3	1	2	
愛知	1	3	2	2	長崎	1	1	1	
岐阜	1	1	1		熊本				
三重	1	1	1	1	大分				
新潟	1	1	2	2	宮崎			1	
富山	7	8	2	2	鹿児島	1	1		1
石川					沖縄				
福井					小計	41	38	51	19
小計	203	222	217	173	合計	244	260	268	192

平成28年度は8月17日現在です。